

令和元年度第2回障害者支援センター運営委員会議事録

■開催日：令和元年9月30日〔月〕14時～15時30分

■場所：横浜市健康福祉総合センター9階 小会議室901, 902

■出席者：委員総数16名中14名出席

谷口(政)委員長、大塚委員、松島委員、渋谷委員、大友委員、根本委員、八島委員、長谷山委員、谷口(実)委員、早坂委員、室津委員、小久保委員、茨木委員、川島委員
(オブザーバー)

横浜市1名(品田係長)

横浜市社会福祉協議会4名

(品川総務部長、加藤総務課長、田邊地域活動部長、牧内地域福祉課長)

顧問弁護士(内嶋弁護士)

■次第

〔知久事業推進課長〕

定足数を確認し、運営委員会の成立を報告。

〔森センター長〕

台風15号で千葉県を中心に大変な被害があり、その中で障害を持った人たちも大変な思いをしながら生活をされているかと思う。さらにまた台風が来るようで、地球全体がおかしくなっていることも意識しながら仕事をしていかなければならないのかなと思っている。

今日も皆様の議論、よろしくお願ひしたいと思う。

〔知久事業推進課長〕

以降の進行について、運営委員長が議長を務める旨を報告。

〔谷口(政)委員長〕

早速、協議事項に入らせていただく。

「移動情報センターおよび福祉バス運行事業について」、事務局で資料もまとめ、ヒアリングも続けていただいた。説明をお願いしたい。

〔大貫事務室長〕

資料1、資料2-1、資料2-2、参考資料に基づいて説明し、以下の点について補足した。

・資料2-1の下半分【移管後】のとおり、移動情報センター事業については、支援センターに移管した後も、相談窓口は18区の区社協のままで変わらない。現行どおり身近な相談機関として、各区社協にコーディネーターを配置して対応していく。

・福祉バスについては、約50人乗りの大型バス4台とマイクロバス1台で運行しているが、マイクロバスの

利用希望が増え抽選倍率が高くなってなかなか当たらず、個別にバス会社と契約してバスを手配したという意見をいただいている。また、車いすのまま乗れるバスでも、車いす用の席は2席しかなく、せめて4席は欲しいという意見もいただいた。こうしたこともきちんと協議して、少しでも利用しやすくできるように工夫をさせていきたい。

・移動支援について、現在はボランティア中心だが、養護学校の高等部がバスの運行をやめた際にボランティアで対応するということがあり、とても全てのケースに対応できないので、きちんと必要に応じられるように見直すべきという意見もいただいた。こうした意見も受け止め、移動情報センター事業を支援センターに移管した上で、横浜市とも調整をさせていただき対応していきたいと考えている。

〔谷口(政)委員長〕

この案件については様々な意見が交わされ、いよいよ大詰めかと思うが、いかがか。

〔松島委員〕

今まで福祉バスの予約受付は8階だったが、移管した場合は支援センターで受け付けるのか。

また、以前、福祉バスの運転手とトラブルになったことがあったが、もしトラブルがあった場合は支援センターに直接言うのか。

〔大貫事務室長〕

予約受付については、現行のまま8階で受け付けさせていただきたい。

また、もしトラブルがあった場合は支援センターに相談していただきたい。きちんとバス会社と話し合い、どういうトラブルがあり、障害者がどういう思いをしてどのような被害を受けたか、きちんと支援センターが間に入って話し合いを進めていく。

〔谷口(政)委員長〕

福祉バスというのはかなり大きい仕事だったのだなと再認識した。マイクロバスを増やしていき、車いすの定数も増やしていこうということか。

また、団体が個別にバス会社と契約した場合があるということだが、そうしたことはこの予算を使って可能にならないのかと思うが、いかがか。

〔大貫事務室長〕

マイクロバスを増やしてほしい、また車いす用の席を増やしてほしいという意見は、複数の委員からぜひ検討してほしいと言われている。現在の大型4台、マイクロバス1台は、バス会社と複数年契約をしているため、すぐ変えるのは難しいが、バス会社や横浜市と話し合いを進めて、実現していきたいと考えている。

〔谷口(政)委員長〕

その他にいかがか。

〔大貫事務室長〕

本日欠席の永田委員から事前に電話で意見をいただいたので、代読させていただく。

一点目が、「支援センターが移動情報センター事業も含めて全部やるとなると、横浜市社協が障害を持った人たちのことを考える機会が減ってしまうのではないかと心配。全部、障害者支援センターがやりますからということになってしまうのではないかと心配。」という意見。

二点目が、「横浜市社協に相談してもわからないから支援センターに聞いてほしいということになり、障害を持った人たちが身近に相談できる場所が少なくなるのではないかと心配。」という意見をいただいた。

実は多くの委員から事前に同じ意見をいただいている。これについては、地域活動部と総務部も一緒に検討して、決してそういうことにならないよう、今までどおり区社協やケアプラザ等の身近な場所できちんと受け止めて相談に対応するという約束のもとで、今日の回答文書を作成させていただいている。

〔谷口(政)委員長〕

福祉バスの運行は、具体的なダイレクトなサービスで、この問題は全体として障害者の移動の保障という問題に展開していかざるを得なくなる。次々と課題が生まれてきて、それを具体化していかなければいけないというステップに入っていくのではないかと思うが、先の見込みという点について聞かせていただきたい。

〔大貫事務室長〕

現在は地域活動部で事業を担い、今までのノウハウ等も地域活動部が持っている。支援センターに移管した後は、地域活動部も一緒に課題や危惧を受け止めて、各委員にも意見をいただき、必要な制度改正に結びつくよう横浜市に対して意見を言っていきたい。そういう形で進めたいと思っている。

〔谷口(政)委員長〕

高齢者のデイサービスの場合は、ドアツードアで送迎がほとんど完璧に近いほどできている。介護保険で行われており、制度的な違いはととても大きいですが、障害者の移動とは格段の差がある。そう考えると、ますますこの事業は、課題がすぐ具体的に盛り上がってきて展開策を求められるのではないかという気がする。

〔大貫事務室長〕

教育委員会の中には、養護学校の生徒を送迎するボランティアの仕組みがあり、その担当の嘱託を置いているが、必要なニーズをきちんと受け止めることができていない。それが最大の課題だと思っている。そういった課題を一つひとつ掘り下げて、そこから見えた課題の検討を一步一步進める。進める際にはこの運営委員会に報告し、制度を少しでも良くしてもらえるように、いただいた意見を横浜市の所管部に伝えていく。そのような形で進めたいと考えている。

〔茨木委員〕

説明も丁寧にしていただき、一步進めたいという支援センターの気持ちも伝わってきた。しかし、これからということで考えると、一般の公共交通機関をよりスムーズに使えるような働きかけ等も大事になってくるが、やはり障害の重い方たちが利用する率が高くなっていき、こうした特別な移動手段を必要とする方たちは絶対に少なからずと思う。そうすると、時間をかけて変えていくのではなく、早急に対策を立てて一番必要としている人たちのニーズを支援センターがきちんと汲み取って具体的に变えていく、という方向でやらなければいけないと思う。全体の流れとしては、反対はしない。

〔大貫事務室長〕

同じ趣旨の意見を複数の委員からいただいている。少しでも早く改善できるところは改善する。それを念頭に取り組んでいきたいと思う。

〔長谷山委員〕

今回、資料を細かく出していただきありがたい。

私たちの会にも、実際に送迎がないから通えないという障害の重たい子たちがいる。週5日通えるためにはどうするのかということも含めて、これから検討していただきたい。

移動情報センターは、これを使うと毎日の生活ができるという課題を汲み取って、やはり計画相談をしつかりここに入れていかないと、解決していかないのかなと感じる。そこも含めて、支援センターだからそこまでできるというところを出していただきたいと思う。

〔大貫事務室長〕

長谷山委員には具体的な事例も教えていただいている。そうしたことも踏まえて検討し、きちんとカバーできるような形を作っていきたいと思う。

〔室津委員〕

丁寧な対応をしていただきありがたい。

ただ、意見を聞き検証や検討もきちんとし必要な提言をするということは理解できるが、それは社協全体が本来やるべきことなのではないか。支援センターが関わらないとそうならないということが腑に落ちない。これは支援センターがやることというのではなく、社協全体がきちんと障害者の話を聞き、市に必要なことをきちんと言えるようになっていかないといけない。そこはぜひ今後取り組んでもらいたいと思う。

また、しばらくしてやはり検討してもだめでした、と言われても困る。了解をもらった、で終わらせるのではなく、人材育成の問題は引き続き行い、随時報告いただくということをぜひ行っていただきたい。

〔大友委員〕

資料1の「職員の専門性と人材育成について」とスケジュールについて、運営委員会で承認された後に検討がなされて来年の4月からスタートとなるのか。

〔大貫事務室長〕

横浜市でも3年くらいかけて人材育成のプログラムを作っている。市社協でも人材育成に取り組んでいるが、そことすり合わせをして、きちんと今回の人材育成に取り組むとなると、やはり3年くらいかかるだろうと考えている。横浜市の人材育成のプログラムは手元にあるが、そのまま社協に当てはめることはできないだろうと思う。それを参考としつつ、いただいた意見を踏まえ、運営委員会に随時報告しながら達成可能な人材育成プログラムの作成を進めたいと考えている。

〔大友委員〕

移動情報センターと福祉バスの移管はいつ頃か。

〔大貫事務室長〕

来年の4月を目指していきたいと考えている。

〔大友委員〕

支援センターは精神障害者の問題にあまり取り組んでいないと私は思っている。もともと三障害一体で取り組むのが支援センターの基本的な趣旨だと思うが、十何年も置き去りにされたままでなかなか前に進んでいない。例えば精神保健ボランティア講座の取組をするなど、具体的なプランを検討してほしい。

〔大貫事務室長〕

支援センターでは、例えば共同受注事業で、この半年間でも120社近く企業訪問を行って様々な依頼をいただき、それらを精神障害も含めて多くの事業所に受注いただいている。今いただいた意見についても、ぜひ一緒にやらせていただきたい。どのようなことが求められているのか、どのような講座がよいのか、具体的なアドバイスをいただきながら、今後進めさせていただきたい。

〔谷口(政)委員長〕

このままでいくと4月に移管するということになるのかと思うが、今までの議論を振り返っていかがか。

移動の問題はとても大きく、次々と対応していかなければならない課題が出てくると予想されるが、それを受けとめていく組織的な検討の場を持たなくてよいのか。

〔大貫事務室長〕

この移管については、ワーキングチームで検討している。ワーキングチームには、現在この事業を所管している地域活動部の部長と課長、職員の専門性や人材育成もあるので総務部の部長と課長、支援センターの事務室長と各課長、区社協の代表として2区の事務局長が入って検討を進めている。

今後も様々な課題が出てきたときには、こうした仕組みを継続して社協として考えていく。支援センターだけでできるとは思っていないので、組織全体がバックアップしながら、継続して検討を進めたい。

〔室津委員〕

移動全体についてももう一度検証する必要があるのではないかと。あんしん施策で移動の問題は一つのプロジェクトになっていたのだから、横浜市のあんしん施策としてどこまで進んで何ができていないのかを、これは市の責任かもしれないが、きちんと検証する。そして移動について、市のプロジェクトで検討した点をもう一度検討し直して、足りない部分は何かということ支援センターが中心になって検討してもらいたいと思う。

〔八島委員〕

今、私は社会福祉法人に関わっている。親の関わりがないと通えない人もいるが、親もどんどん高齢化して、送迎バスの配車場所まで連れてこられなくなっている状況がある。送迎は意外と表に出てこないが、かなり厄介な問題になっている。法人で運転手を募集して送迎をお願いしているが、来られる方はだいたい70歳以上。人の移動をサポートするシステムが日本は弱いという感じがする。本当に必要な人には、移動がないと生活が成り立たない。

国全体の問題ではあるが、先ほど谷口委員長が言われたドアツードアのような大きな夢を掲げてみたら

いかがか。皆が力を結集するような取組をしていただきたいと思います。そうするともう少し皆の元気が出るのではないかと思う。

〔谷口(実)委員〕

やはり重度の方のドアツードアの移動という部分はわかる。一方、私たちが知的障害の方と多く関わっていく中では、車で行く方が楽で、国の制度も車で送迎する部分に加算がついているが、体力があって若い方だと車よりも歩かせたいという場合がある。ご家族がどうしても担わざるを得ない状況を作ってしまうが、私たちができる限り、加算が付かなくても歩く支援をしたいと思っている。そのような部分も含めての移動ということで、広い範囲で様々な障害のある方たちの移動について一緒に考えていただけたらと思う。

〔谷口(政)委員長〕

以前も話しをしているが、1990年代に、移動のための公社ができていたブリティッシュコロンビア州に行った。そこでは、自分のID番号を電話で言うかパソコンで打ち込むと、どういう介助が必要な人かがすぐにわかって、いつどこへ行きたいというのでドアツードアで送迎に来る。その次に脳性マヒの人と一緒にバンクーバーへ行った時は、彼は車いすを使わないで飛行機に乗ったが、バンクーバーへ着くと、電話一本手配しただけで彼専用の電動車いすを配達してくれた。移動を保障するという事は奥深いと思ったが、その時のバンクーバーの人たちは、「今まで障害者は、コンサートにも演劇にもミュージアムにも行けなかった。そういう二流の市民で暮らさせてきたから、そこは保障しなければいけない」と言っていた。夢を持ってというのは、皆さんそういうことを言われているように思う。

支援センターにこの事業を移管するという事は、ぜひ社会福祉協議会全体で受け止め続けていただきたい。また、行政の方もこれから大事な展開をしなければいけないということで、意識して仕事をしていただきたい。とても大変なことだと思うが、よろしく願いたい。

それでは、「報告事項 障害者後見的支援事業について」に移らせていただく。事務局より説明願う。

〔手代木後見的支援担当課長〕

資料3及び別紙資料に基づいて、「横浜市障害者後見的支援制度における2区を担当するあんしんマネジャーについて」報告。

〔谷口(政)委員長〕

横浜で先行的に進められてきたシステム、横浜が誇るべきシステムと思うがいかがか。

引継ぎが大変で、家族も本人も不安が残るかと思うが、それは大丈夫だとのこと。

〔手代木後見的支援担当課長〕

この件については、まだそれぞれの区の登録者の方たちにはお伝えをしていない。これからご説明をする予定なので、委員の皆様の中で留めておいていただければと思う。

〔谷口(政)委員長〕

ご苦勞があると思うが、よろしく願いたい。

それでは、横浜あゆみ荘改修工事に移らせていただく。事務局から説明をお願いする。

〔米山横浜あゆみ荘所長〕

資料4に基づいて、「横浜あゆみ荘レストラン厨房等の回収に伴う業務の休止について」報告。
食事が提供できない期間については、飲食物の持ち込みを可とし、各部屋に冷蔵庫と館内に電子レンジ5台を設置した旨を補足。

〔谷口(政)委員長〕

お風呂は使えるということか。

〔米山横浜あゆみ荘所長〕

お風呂は使える。食事の提供以外は通常どおり行っている。

〔谷口(政)委員長〕

いかがか。特になければ、「その他」について事務局から願います。

〔知久事業推進課長〕

配布した「福祉よこはま」193号と「第5回よこはま地域福祉フォーラム開催要綱」について紹介。

〔米山横浜あゆみ荘所長〕

チラシを配布した「都筑ふれあいの丘まつり 2019」について紹介。

〔知久事業推進課長〕

先日の台風15号で千葉県を中心に被害が発生している。千葉県社協から要請があり、近隣の社協で職員派遣を行っている。横浜市社協からも、田中監査担当課長が派遣されたので、報告させていただく。

〔田中監査担当課長〕

9月20日から、南房総市社協が運営する災害ボランティアセンターへの応援派遣が開始され、横浜市社協の第一陣として、20日から24日までの計5日間活動を行った。

今は停電が頻繁に報道されているが、南房総市は平均高齢化率が40%を超えており、一部の地域では50%を超えている、かなり高齢の方がお住まいのエリアとなっている。そのためなかなか自分たちではできないということで、屋根や壁材が飛ばされた後の応急処置のためのブルーシート張りや落ちてしまった瓦などのいわゆる災害ごみ、がれきの運搬をボランティアにお願いをしたいという、その2点がニーズのほぼすべてであった。

私も支援センターの一員なので、到着してすぐに施設の被害はどうだったか聞いてみたところ、やはり外壁や屋根材に補修が必要であったり、在宅生活をされている方の自宅が被害にあって、ブルーシートが張られた状態で過ごしていたりということで、やはり風害の実態があると感じた。また、相談いただいた家庭やボランティアを派遣する家庭に知的障害のある方がいらっしやり、相応の対応を進めたということもあった。

まだまだ外部の応援や市内・県内の助け合いは続いていくかと思う。市社協の職員派遣もすでに10月末まで予定されているが、ひとまず第一陣の派遣報告とさせていただく。

〔谷口(政)委員長〕

次回の日程調整の前に、私から一つお願いをさせていただきたい。

前々から、私はかなりの高齢で運営委員会の委員長を辞めさせていただきたいと思いつけていたが、8月20日に、森センター長宛てに辞意の書類を出させていただいた。以前から申し上げており、以後のことはぜひ委員の皆さんでご検討いただきたいと、内々で5年くらい前からお願いをし続けてきた。

1985年に在援協の理事を引き受けさせていただき、2002年に酒井喜和さんが急死され、後を引き継がれた沼尾さんがまた2012年に亡くなられた。そして森センター長に代わられ、新しいセンター長がみえたのもう私はこれでと思っていたが、辞めようと思う度にもう少しやっていないとまずいのかなと思うようなことが起こり、これはいけないと思ってもう辞めさせていただきたいと申し上げてきた。

今も議論になっているが、支援センターのスタッフの専門職としての位置と役割をどのようにしていったらよいか、とても大きな課題だろうと思っている。さらに大きいのは、人間というものの見方で、一人ひとりの人生を見て、どういう暮らし、どういうゴールを立てていったらいいのか、そのゴールに向けて支援をすることが、私たちの障害者支援ではないのかと思う。そうした課題がたくさん残されているが、高齢の私がこれ以上続けるのは本当によくはないと思い、森センター長に書面で申し上げた。

この委員長は互選なので、以後のことをぜひ皆さんで進めていただきたいと思っている。どうぞよろしくご了解くださるようお願い申し上げます。

〔森センター長〕

谷口先生のお話のとおり、もう一年、もう一年と続けてきていただいたが、8月に初めて手紙を頂戴した。その後も先生とお話させていただいたが、やはりお考えは変わらないとのことだった。

今、谷口先生がおっしゃったように、これからもこの支援センターは続いていく。これからどういう形で委員長を選任するかという話もいただいたので、皆様とお話していきながら、谷口先生の意思に沿うような形で進めていきたいと思っている。

まだしばらくはそこにお座りになっていただくが、今日どうしてもお伝えしたいというお話だったので、皆様の心に収めておいていただければと思う。

〔谷口(政)委員長〕

どうぞよろしくお願ひしたい。それでは最後に次回の日程調整をお願いする。

〔知久事業推進課長〕

12月2日(月)の午後2時、8階のF会議室でいかがか。ご都合のつかない方がいらっしゃらなければ、この日程でご予定いただければと思う。ご案内は改めてさせていただきます。

〔谷口(政)委員長〕

それでは、以上を持って第2回障害者支援センター運営委員会を終了とさせていただきます。

以上